

自己評価

学校教育目標	<p>1 校訓（目指す児童生徒の姿） 「仲よく 明るく たくましく」</p> <p>2 教育目標（目指す児童生徒の姿を実現するためにどのような教育を行うのか） 児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた教育活動を推進し、こころ豊かにたくましく主体的に生きる力を育成する</p> <p>3 私たちのスローガン（校訓・教育目標を端的に表した言葉） 「元気な病弱教育」 (1) この学校で学ぶことで、児童生徒を元気にしていきたい (2) そのためには、保護者も元気にしていきたい (3) そのためには、私たち教職員も元気に働きたい (4) 力を合わせて、学校も地域も元気にしていきたい</p> <p>4 今年度の教育の重点 (1) 児童生徒を守りきる安心・安全な体制の整備・推進 (2) 人とのかかわりを通して、豊かな表現力、自己肯定感を育てる教育の推進 (3) 確かな学力と生きる力を身に付けることができる病弱教育の充実 (4) 病弱教育の理解啓発の推進</p>
--------	---

小学部

現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの研究テーマに沿って授業改善を行ってきたが、新学習指導要領の実施に伴い、すべての授業において「主体的、対話的で深い学び」を目指す。 合同授業や行事等の取組等で児童がかかわる場の設定を行ってきたが、今後は合同授業を計画的に実施するとともに、休み時間等にもかかわる場面を広げていく。 遠隔授業を部集会に取り入れ、児童の仲間意識を高めることができたが、今後は、居住地校や他の特別支援学校との遠隔授業についても充実を図っていく。 教員間で児童について情報共有をしながら支援を行ってきたが、各グループで計画的に時間を設定し、情報交換やミニ検討会を実施していく必要がある。 保護者や関係機関等と連携しながら、児童の実態と家庭状況に応じたキャリア支援を行ってきたが、小学部段階のキャリア支援の捉え方について、職員間の共通理解が不十分であり、保護者への伝え方にも課題が残った。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>(1)新学習指導要領の実施に伴い、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を積極的に行う。</p> <p>(2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げる。</p> <p>(3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指す。</p>
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> 学級及び学習グループ会と、グループ長・分掌長等の企画会を実施する。 安心・安全に教育活動を送るための家庭・病院等・保健室と連携する。 部内の各分掌担当者の積極的な連携、業務の推進を行う。
目標の達成に必要な具体的取組	<p>(1)新学習指導要領の実施に伴い、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を積極的に行う。</p> <p>①新学習指導要領の理念の定着を図り、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を積極的に行う。</p> <p>②Dグループの図画工作・音楽について、教科の観点から指導内容や指導方法、評価等の検討を行う。</p> <p>③学年・学級の枠を超え、児童が主体的に課題に取り組める学習グループを編制する。</p> <p>(2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げる。</p> <p>①児童相互のかかわりが広がるようなグルーピングを工夫して、合同学習を進めたり行事に向けた取組や休み時間等の活動を行ったりする。</p> <p>②他校との交流学习に web 会議システムを活用し、校外の児童とのかかわりを多くもてるようにする。</p>

	<p>③訪問児童の学校や居住地校でのスクーリングを計画的に、かつ安全に実施するとともに、児童の実態に応じて集会での遠隔授業をさらに進めていく。</p> <p>(3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指す。</p> <p>①個別の教育支援計画に基づいて、本人・保護者の願いやニーズを踏まえ、ねらいを共有しながら教育活動に取り組む。</p> <p>②医療や福祉等関係機関との連携を深め、児童が健康に生活したり、福祉サービス等を活用しながら生活を広げたりできるような支援を行う。</p>
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<p>(1)新学習指導要領の実施に伴い、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を積極的に行うことができたか。</p> <p>(2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げることができたか。</p> <p>(3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指すことができたか。</p>
取組状況・実践内容等	<p>(1)・児童が安心して自分から活動できる環境で、自ら課題を見付けて取り組める授業を設定し、実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各児童の成長や実態に応じて指導計画を見直し、課題達成のための授業内容を設定した。 ・コロナで十分な授業が行えない間、オンライン学習や課題等で学習を補った。 ・Dグループでは、図工や音楽で、自立活動との違いを意識して活動内容を設定した。 <p>(2)・オンラインで居住地校の児童との交流を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わくわくタイムや学活などで他グループの児童とオンラインでの合同学習を行った。 ・Eグループでは、スクーリングの代わりにオンラインでDグループの児童と一緒に音楽を行った。 ・直接交流はできなかったが、間接交流を継続して実施した。 <p>(3)・教育支援計画の学校生活のねらいを意識し、キャリア支援の視点をもって教育活動を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療関係者や保護者と連携を深め、共通理解を図って児童が健康、安全に生活ができるよう努めた。
評価の視点	評価
(1)新学習指導要領の実施に伴い、「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を積極的に行うことができたか。	A ② C D
(2)児童の実態に応じた合同学習、他校との交流学习を計画的に実施することで、児童相互のかかわりを広げることができたか。	A ② C D
(3)保護者や関係機関と連携して、家庭や地域等において児童の生活が広がる支援を目指すことができたか。	A ② C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)○学習グループを工夫し友達の意見を聞いたり自分の考えを伝えたりすることで、表現する力、方法、聴く力、聴こうとする姿勢を育てることができた。</p> <p>○指導内容の明確化や記録の共有化によって、指導方法を改善することができた。</p> <p>○Dグループの図工では、様々な素材を準備することで好きな素材を選んだり、ダイナミックに貼ったりと主体的に活動する姿を引き出すことができた。</p> <p>▲コロナ禍による学校休業や分散登校、合同活動の制限により、児童の実態に合わせた十分な支援が行えないことがあった。</p> <p>▲学習を深めるために他者の意見や考え方を知ることが必要であったが、その機会を十分に設けることができなかった。</p> <p>▲Dグループでは、音楽や図工の観点で評価するための検討が不十分だった。</p> <p>(2)○オンラインで同じ時間活動を共有することで互いを意識し、集団活動を体験することができた。</p> <p>○児童自身がオンラインでの合同学習を楽しみにして意欲的に取り組む姿がみられた。</p> <p>▲オンラインによる画面越しの交流は、児童の実態によってイメージをもちづらかったり、主体的に参加することが難しかったりすることがあった。</p> <p>▲長良東小学校との学校間交流を実施することができなかった。</p> <p>(3)○病棟関係者や保護者と相談しながら安全対策を行い、活動を計画して支援を進めることができた。</p> <p>○保護者や看護師と連携しながら毎日取り組むことで着実に支援内容をステップアップすることができた。</p> <p>○支援計画の作成過程において、保護者の願いを聞き、支援計画を作成することができた</p> <p>○医療、福祉、家庭、学校と情報交換を行い必要な支援を確認することができた。</p>	A ② C D

来年度に向けた課題と改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン授業のメリット、デメリットを、児童の実態や活動内容ごとに明確にし、活用方法や場面、環境整備について検討し実践する。 ・Dグループの音楽や図工では、評価の観点をもとに実態に合わせた活動内容や支援方法を検討する。 ・コロナ禍における部内及び他校との交流活動の実施方法を検討し、早い段階から計画的に進める。
-----------------	--

中学部

現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒の実態や課題を職員が共有したこと、専門家や保護者と連携し適宜ケース会議等を開いたこと、ICT機器等を積極的に活用したことなどにより、生徒や保護者に対して適切な支援ができたので、継続して実施していく必要がある。 ・病弱という生徒の特性から、日常生活の中で体験的な活動が少ないことを踏まえ、将来必要な力を身に付けるため、体験的な学習の場等を校内外において確保していくことを検討する。 ・生徒の体調や実態に変化があるときは、教職員等がすぐに情報共有し対応することが大切である。 ・教職員や病棟職員及び保護者や専門家との連携が生徒の健康で安全な生活には不可欠である。 ・生徒が自ら健康で安全な生活を送る力を身に付けるため、支援をする教員自身の専門性向上に向けての努力が必要であり、同時に生徒の学校生活での安全安心な環境整備も不可欠である。 ・生徒会活動や行事等の集団活動を通して引き出してきた、社会性やコミュニケーション力をより育てていくために、少人数でもこうした内容を身に付けるための活動内容の検討が必要である。 ・体調不良等で欠席や遅刻をする生徒について授業内容の精選や進度変更等、「個別の指導計画」の見直しを適宜行ったり、教材・教具の積極的な活用をしたりすることにより、学習の定着や五感等に働き掛ける活動ができたので継続する必要がある。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ol style="list-style-type: none"> (1)生徒が健康で安全な生活を送るための環境整備をする。 (2)多様な実態の生徒が、それぞれの表現方法で自分の気持ちを適切に相手に伝える力を育てる。 (3)生徒が社会生活を営むための基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が部会やグループ会や分掌会等において、生徒の情報を確実に共有し、一人一人に応じたきめ細かい支援を組織として行えるようにする。また、安全面に対する意識や環境整備の状況についても部会や朝礼等でこまめに確認する。 ・外部の支援機関と積極的に連携し、必要に応じて支援会議を適切なタイミングで開催する。
目標の達成に必要な具体的な取組	<ol style="list-style-type: none"> (1)生徒が健康で安全な生活を送るための環境整備をする。 <ol style="list-style-type: none"> ①保護者や病棟職員及び教職員間で情報共有を徹底し、生徒の体調等の変化に即対応していく。 ②外部機関職員や専門家と連携し、必要に応じてケース会議等を開催していく。 ③生徒が健康に関する正しい知識や自己管理能力を身に付けられるように支援する。 ④教職員が生徒の病気やその支援方法についての専門性向上に努め教室等の環境整備をする。 (2)多様な実態の生徒が、それぞれの表現方法で自分の気持ちを適切に相手に伝える力を育てる。 <ol style="list-style-type: none"> ①あらゆる教育活動において、生徒が自らの思いを表現できる機会を設定したり、タブレット等を活用して表現したりできるような環境整備をする。 ②様々な行事や校外学習、遠隔授業等の体験的な学習を通して、人との関係作りや自分の考えの伝え方等を学べるように支援する。 ③教職員が生徒の実態や課題についての情報を共有し、適切な支援を共通して行う。 (3)生徒が社会生活を営むための基礎的・基本的な知識や技能の習得を図る。 <ol style="list-style-type: none"> ①教職員が専門性向上に努め、生徒の興味・関心や主体的な姿を引き出す。 ②生徒の実態に応じて、ICTの活用や教材・教具の工夫を図り、学習効果を高める。 ③生徒の実態や学習到達度を把握し、「個別の支援計画」「個別の年間指導計画」等の作成及び活用を十分に行う。また、そうした情報を教職員間で共有し実践に活かす。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者や外部の専門家と密に連携し、生徒の体調の変化への対応や必要に応じてケース会議等を開催するなどして支援ができたか。 ・生徒の実態に応じた自己管理能力や健康に関する知識が生徒に身に付くよう支援できたか。 ・教職員が生徒の病気や支援についての専門性向上に努め、教室等の環境整備ができたか。 ・日常の学習や校内外での体験的な学習等を通して、人との関係作りや生徒が自らの思いを表現できる機会及びそのための環境整備ができたか。 ・教職員が生徒の情報を共有し、適切な支援を共通して行うことができたか。 ・生徒の興味・関心や主体的に学習に取り組む姿を引き出すような支援ができたか。 ・学習効果を高めるためにICTの活用や教材・教具の工夫ができたか。 ・「個別の教育支援計画」等を教職員間で共有し、実践に生かすことができたか

取組状況・実践内容等	<p>(1)・教室内及び教材の消毒をし、換気・室温・湿度に気を付けて活動した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防のため、自宅待機する生徒には積極的にオンライン授業を実施した。 ・販売活動等で日頃接しない教員との対面活動時には、独自のシールド等を準備した。 ・個別のスケジュール表等を活用し、生徒が自ら体調の変化に気付けるようにした。 ・教職員間で生徒の情報共有をし、生徒が精神的に落ち着けるよう教室掲示の工夫や教材等の配置及び固定による室内の動線確保をした。 <p>(2)・臨床心理士等の専門家や保護者と連携し、生徒が自分の思いを話せる場を設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他校の生徒との遠隔授業や居住地校交流（間接）を通して、意見交換の場や紙面での自己表現の場を設定した。 ・タブレット端末等を利用して自分の思いを表現する活動を行った。 ・生徒が自分の考えをまとめ表現するために、十分な時間をとったり、メモ等の視覚的な支援教材や部の掲示板を利用したりした。 ・授業担当者が生徒の舌や眉の動き、心拍の変化等の情報を共有して授業を行った。 ・オンライン部集会を実施し、多くの生徒が持ち回りで司会等ができた。 ・感染症対策をしながら校外学習や販売活動等の体験的な学習を行った。 <p>(3)・職員が積極的に研修を受け、部会終了後研修報告を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・積極的に授業の中でICT機器を活用する時間を設けた。 ・グループ会や朝会等で、生徒個々の実態や課題等の共通理解を図った。 ・授業で日常生活に密着した教材の活用や見通しをもち易い繰り返しの活動を行った。 ・授業の始めに前時の復習やワークシートの活用を毎時行った。 ・専門家と連携して生徒の支援を行った。 	
評価の視点	評 価	
(1)生徒が健康で安全な生活を送るための環境整備をすることができたか。	Ⓐ B C D	
(2)多様な実態の生徒が、それぞれの表現方法で自分の気持ちを適切に相手に伝える力を育てることができたか。	A Ⓑ C D	
(3)生徒が社会生活を営むための基礎的・基本的な知識や技能の習得を図れたか。	A Ⓑ C D	
成果・課題	総 合 評 価	
<p>(1)○スケジュール表等の活用で生徒が自らの生活を可視化できたことにより、自らの健康についての課題に意識を向けられるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教室内の教材等の整理整頓や感染予防対策により、生徒が怪我や体調不良等、長期の欠席に至るようなことがなかった。 ○自宅待機する生徒に対して、積極的にオンライン授業を行ってきたことにより、生徒の学ぶ機会の保障と精神的安定を図ることができた。 ▲感染症対策等、日常化することによる職員の気持ちの慣れからくるミスを防ぐ。 <p>(2)○オンラインでの部集会実施は生徒の緊張感を和らげ、発言しやすい環境を用意することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> さらにリアルタイムで訪問生も参加できた。 ○タブレット端末や掲示物等の活用で、生徒が複数の手段の中から選び思いを表現できた。 ○生徒の実態を教員や看護師、保護者等で共有することにより、生徒の小さな表現も受け止めることができた。 ▲来年度も、生徒の変化する情報を共有する体制を継続していく。 ▲生徒が自分の負の感情を適切に表現する方法を身に付ける支援をする。 <p>(3)○職員が専門性向上に努め、報告会設定により、それらの知識を部内に汎化できた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教材や授業の工夫により、生徒の興味関心を引き出し、自信をもって取り組む姿勢を育てたり学習の定着をはかったりすることができた。 ○専門家との連携により、生徒の摂食や姿勢等について見直すことができた。 ▲教員が教科指導やICT機器の活用等、専門性向上に向けての取組を続ける。 ▲評価の観点に対する評価の仕方の共有が教職員間で不十分であった。 	A Ⓑ C D	
来年度に向けた課題と改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策等、日常的な繰り返しの大切さを職員一人一人が自覚し、職員間でお互いに確認しあえるように努める。 ・生徒の気持ちの安定を大切にしたい支援をするために職員間及び保護者や外部機関とも連携していく。 ・コロナ禍での活動を考えると、多くの者との直接的なかわりが難しいため、オンラインでの活動の充実やICT機器指導力の向上を図る。 ・生徒の実態や変化、目標に迫る手だてや評価の仕方を共有するために、個別の指導計画等の活用はもちろん、定期及び臨時の会等を必要に応じて開いていく。 	

高等部

<p>現状及びアンケートの結果分析等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の病気や障がいの程度が異なり、身体機能、知的理解、コミュニケーション能力、基本的な生活習慣、社会的経験等において多様な実態がある。 ・危機管理について日頃から意識を高く保ち、十分な引継ぎや連絡により、全職員が情報共有の徹底を図る。 ・過去の進路学習や進路情報等を活用し、進路決定に至るまでの系統的で具体的な進路学習の流れを検討し、進学や就職指導に生かす必要がある。 ・教員が指導法や授業力、専門性、資質の向上に努めると共に、部全体の指導力が高められるよう教員個々の実態に合わせた研修会、伝え方、指導方法の共有をより図っていく必要がある。
<p>今年度の具体的かつ明確な重点目標</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)一人一人の病気や障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付ける。 (2)豊かな情操と個性ある表現力を身に付ける。 (3)健康の保持増進と生活の安定を図る。
<p>重点目標を達成するための校内組織体制</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が安心・安全な学校生活、家庭生活を送ることができるように、家庭や関係機関との連携を図りながら、教員間の共通理解に基づいた危機管理意識の高い支援体制を確立する。 ・生徒が創造性豊かな自己表現を獲得し、社会性やコミュニケーション能力を身に付ける手だてとして、多様な体験・表現及び発表や交流の場を積極的に提供する体制を充実させる。 ・生徒が確かな学力や進路実現に必要な基礎・基本を身に付けるべく、あらゆる教育活動において効果的な指導を行うため、教員自らが指導法の改善や専門性と資質の向上に努め、研修等から得た知識や技能を授業実践に生かすだけでなく知見の共有化を図り教員同士が学び合う組織を構築する。
<p>目標の達成に必要な具体的取組</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)一人一人の病気や障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付ける。 <ol style="list-style-type: none"> ①生徒が進路目標を明確にもち、やがては希望の進路を実現するため、教育活動のあらゆる場面でキャリア学習を進めるとともに、生徒の実態に応じて保護者や関係機関と緊密に連携してキャリア実習や居住地域実習等を実施する。 ②確かな学力や社会人として必要な基礎・基本を身に付けるために、生徒が系統的で具体的に取組めるよう3年間のキャリア学習の流れを明確にして指導に生かす。 ③困難さを伝える方法や喜び等の気持ちを表出する力、集団内での適切な言動を身に付けるため、人とかかわる機会を増やし、ソーシャルスキルや表現力の獲得を図る。 ④教員が研修や日頃の実践から得た知識や技能を互いに学び合う体制を築くため、様々な機会をとらえ知見の共有に努める。 (2)豊かな情操と個性ある表現力を身に付ける。 <ol style="list-style-type: none"> ①多様な「みる・きく・ふれる・つくる」場を提供して、創造性豊かな制作や発表を行う。 ②表現（表出）力やコミュニケーション能力の伸長を図るため、ICT機器や教具等を積極的に活用するとともに、新しい教材を開発する。 ③自己肯定感を高めるため、コンクールや検定試験、行事等への積極的な取組を支援する。 (3)健康の保持増進と生活の安定を図る。 <ol style="list-style-type: none"> ①精神的に不安定な状態の生徒が自己理解を進め、自立に向けて前向きに考えることができるように、保護者の理解や協力を得て効果的で継続的な支援を行う。 ②生徒の健康状態の維持と生活環境の改善のため、外部の専門家や各関連機関と密接に連携して保護者を支援するとともに、必要に応じてケース会議等を開催する。 ③生徒の安全を脅かすリスクの芽を早期に発見したり、緊急事態に適切に対処したりするため、ヒヤリハット事例の報告と蓄積を図るとともに、危機管理意識を高く保ち、常に全職員でハウレンソウを徹底して情報を共有する。
<p>達成度の判断・判定基準あるいは指標</p>	<ol style="list-style-type: none"> (1)①生徒が明確な進路目標をもち、進路希望が実現したか。 ②学力が向上し、社会人として必要な基礎基本が身に付いたか。 ③ソーシャルスキルや表現力の伸長がみられたか。 ④教員が互いに学び合う体制を築くため、様々な機会をとらえ知見の共有に努めたか。 (2)①多様な「みる・きく・ふれる・つくる」場を提供して、創造性豊かな制作や発表ができたか。 ②ICT機器や教具等を積極的に活用するとともに、新しい教材を開発したか。 ③コンクールや検定試験、行事等へ積極的に取り組んだか。 (3)①保護者の理解や協力を得て効果的で継続的な支援を行ったか。 ②関連機関との連携を図ることで保護者を支援し、生徒の生活環境を改善できたか。 ③ヒヤリハット事例を蓄積し、常に全職員でハウレンソウを徹底して情報を共有したか。

取組状況・実践内容等	<p>(1)・コロナ禍ということもあり集団における支援の場が少なく、個に応じた支援が中心となったが、一人一人の学習状況や心の状態等実態把握に努めながら、各教科や自立活動において生徒の将来に向けての学習を実践した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態をグループの職員で確認し、保護者の思いやニーズを踏まえて授業を行うことができた。 ・生徒の卒業後を意識して、自立活動の指導目標・指導内容を設定して取り組んだ。 ・今年度はコロナ対応のため活動が制限されたが、オンラインを用いて、行事等の活動に協力して取り組むことができた。 ・コロナ禍で計画通りではなかったが、可能な限りインターンシップや就業体験、施設体験等の実習を行うことができた。 ・校外学習等行事が中止となる中で、適宜計画を変更し、生徒の目標に沿った内容をその都度考えて実施することができた。 <p>(2)・金華祭では、昨年度とは異なりオンラインを主とした開催となったが、生徒の実態に合わせて共同制作をしたり、タブレット端末で発表を各教室で視聴したりして、実施可能な範囲で一人一人が工夫しながら積極的に参加することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態を把握した上で、新型コロナウイルス対策にも配慮し、安全・安心の環境づくりを最優先にしながら生徒の表出を引き出すために、積極的にタブレット端末を活用した。歌や読み聞かせが制限される中、既製の音楽や絵本だけでなく、生徒の実態に合わせた教員手作りの音源が有効だった。 <p>(3)・授業支援の専門家や外部機関（医師、看護師、理学療法士、臨床心理士等）と連携し、助言を生徒の支援や指導方法に取り入れた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスへの対応について、関係諸機関とも連携をとりながら、一人一人が安全管理を行うことができた。
評価の視点	評価
(1)一人一人の障がいの状態に応じた教育により、将来の社会生活や家庭生活、職業生活に必要な知識と技能、生活態度を身に付ける支援ができたか。	A (B) C D
(2)豊かな情操と個性ある表現力を身に付ける支援ができたか。	A (B) C D
(3)健康の保持増進と生活の安定を図る支援ができたか。	A (B) C D
成果・課題	総合評価
<p>(1)○オンラインシステムを有効活用し、学校と家庭をつないで授業や体調確認を行ったりすることができた。また、職員も使用の仕方に慣れることができた。</p> <p>▲オンラインの活用について試行錯誤して取り組んだ結果から新たに分かったことがあった。今後も引き続き、生徒の障がい特性に応じたオンライン授業のあり方を考える必要がある。</p> <p>▲今年は学級間の行き来が少ないため、他学級の生徒の日常生活が分からず、対応が遅れがちになってしまった。</p> <p>(2)○学校行事や校内清掃に主体的に取り組み、周囲から生徒自身が評価される中で、自己肯定感を高めることができた。</p> <p>○金華祭では、オンラインを利用した部行事を実施したり在宅訪問ではタブレット端末で発表を視聴したりすることで、生徒・保護者からも理解を得ることができた。</p> <p>▲生徒とかかわる機会が減ってしまったので、オンラインシステムを利用して、定期的に高等部の交流が行えたらよかった。</p> <p>(3)○教員間及び教員と看護師の連携が深まり、適切な支援を部内に広めることができた。</p> <p>○在宅の訪問授業において、生徒の心身の状態を保護者から常に詳細な情報を聞き取りながら、活動内容を臨機応変に変更したり、活動時間を調整したりして適切な支援ができた。</p>	A (B) C D
来年度に向けての改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・教員が指導法や授業力、専門性、資質の向上に努めるとともに、部全体の指導力が高められるよう教員同士が学び合う場を設けるなど、教員個々の実態に合わせた研修会、伝え方、指導方法の共有をより図っていききたい。 ・情報の共有や危機管理等、組織としての意識を高くもち、グループ長会を開催するなど十分に連携を行いながら支援にあたることのできるようにする。 ・保護者や関係機関との連携を大切にするとともに、生徒の家庭での状況を把握し、必要に応じて保護者と共に支援にあたることのできる体制づくりを行う。